

(3) 市場関係者へのESG投資関連の普及・拡大に向けた取組み

● 市場関係者（証券会社、（機関）投資家、発行体）に対する取組み

- （市場関係者全体）国際団体との連携：グリーンボンド等年次カンファレンスの開催
- （発行体向け）国際団体との連携：グリーンボンド等国际原則に関するトレーニングコースの開催
- （市場関係者向け）SDGsに貢献する債券の呼称統一「SDGs債」について
- （市場関係者向け）「SDGsに貢献する金融商品に関するガイドブック」の作成
- （市場関係者向け）ICMAグリーン／ソーシャルボンド原則の翻訳

● 個人投資家に対する取組みへの提言

- 個人投資家に対する取組みへの政府提言（個人投資家が購入可能な投資信託を中心に）
金融庁「サステナブルファイナンス有識者会議報告書」
金融庁「資産運用業高度化プログレスレポート2022」
2022年6月開催 金融庁・日本証券業協会 意見交換会における連絡事項

(3) 市場関係者へのESG投資関連の普及・拡大に向けた取組み 市場関係者に対する取組み

(市場関係者全体) 国際団体との連携：グリーンボンド等年次カンファレンスの開催

本協会では、グリーンボンド市場等の動向について日本市場関係者の理解を深め、日本市場の課題等を探る機会として、国際資本市場協会（ICMA）との共催で、例年、グリーン／ソーシャルボンド・カンファレンスを開催している（5回開催）

開催タイトル

- 2017年 “グリーンボンド及び社会貢献債市場の発展-アジアの展望”
- 2018年 “グリーンボンド及びソーシャルボンド市場の発展-アジアの展望”
- 2019年 “日本とアジアのグリーン、ソーシャル及びサステナビリティボンド市場の発展”
- 2020年 “コロナ禍において重要性を増す持続可能性に貢献する債券市場の発展 – 世界及び日本の展望”
- 2021年 “いかに日本の債券市場が持続可能な社会に貢献できるか”

主な参加者

日本を中心とするアジアの発行体、銀行、証券会社、（機関）投資家
在日大使館職員、その他の関係機関、報道機関等

参加人数

17年410名、18年551名、19年690名、20年726名、21年609名

【2021年】オンライン開催



【2017年】

於：虎ノ門ヒルズ

【2018年】

於：ホテルニューオータニ

【2019年】

於：ホテルニューオータニ

【2020年】

於：太陽生命日本橋ビル



※ICMAは欧州を中心に世界約60カ国500の金融機関が加盟する国際団体。本拠地はチューリヒ及びロンドン。スイス及び英国当局から自主規制機関と認められている。
本協会との間で2008年1月、相互協力に関する覚書（MoU）を締結し、これまでに5回、日本証券サミット（いずれもロンドンで開催）を共催した。

(3) 市場関係者へのESG投資関連の普及・拡大に向けた取組み 市場関係者に対する取組み

(発行体向け) 国際団体との連携：グリーンボンド等国际原則に関するトレーニングコースの開催

本協会では、グリーン／ソーシャルボンド・カンファレンスの前日、発行体を対象としたICMA原則等に関するトレーニングコースを開催している（4回開催）

	2018年	2019年	2020年	2021年
開催 タイトル	グリーンボンド入門コース	グリーン・ソーシャル・サステナビリティボンド エグゼクティブ教育コース	ソーシャル／サステナビリティ・リンク・ボンドエグゼクティブ研修コース	エグゼクティブ研修コース
参加者	48名	43名	53名	132名
内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 歓迎の挨拶 ● コース概要及び参加者にとっての最優先事項についてのディスカッション ● 商品の現状 ● 市場の原動力 ● 市場の進化 ● グリーンボンドの特性 ● ソーシャルボンド及びサステナビリティボンドについて ● グリーンボンド原則、ソーシャルボンド原則のガバナンス ● ケーススタディ ● 市場に出すための資源と準備（法的文書を含む） ● プレゼンテーション及びレポート ● 機会と課題 ● Q&Aとネットワーキング 	<ul style="list-style-type: none"> ● 歓迎の挨拶 ● 学習の目的及び参加者の期待の照合、自己紹介 ● サステナブル・ファイナンスの背景とグローバルなサステナブルボンド市場の傾向 ● 日本のサステナブルボンド市場の最近の進展 ● グリーン／ソーシャルボンドの特徴-主要な核とグリーンボンド・フレームワークの分析 ● グリーンとソーシャルの分類とタクソノミー ● 外部評価－入門・事例 ● 発行体のケーススタディ ● 市場ガバナンスと国際規制のアップデート ● 日本の政策のアップデート ● 主な学習成果のまとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ● 歓迎の挨拶 ● パート1：サステナビリティ・リンク・ボンド ● パート2：ソーシャルボンド ● 市場概況 ● ソーシャルボンド原則における4つの核 ● 外部評価：一般的な紹介と概要 ● ソーシャルボンドケーススタディ（COVID-19含む）及び市場展望 ● ソーシャルボンドのための外部評価 ● ソーシャルボンドのセカンドパーティオピニオン（SPO）に関する外部評価者によるプレゼンテーション 	<ul style="list-style-type: none"> ● 歓迎の挨拶 ● パート1：クライメート・トランジション・ファイナンス・ハンドブック ● パート2：グリーン／ソーシャルボンド原則アップデート、関連ドキュメント ● 関連ドキュメント ● 発行体ケーススタディ



(3) 市場関係者へのESG投資関連の普及・拡大に向けた取組み 市場関係者に対する取組み

(市場関係者向け) SDGsに貢献する債券の呼称統一について
本協会では分科会等における議論の結果、SDGsに貢献する投資の促進のため、統一呼称SDGs債を設けることとした。

日証協の分科会等における議論

- SDGs達成のためには民間金融を通じた資金調達が欠かせないところ、SDGsに貢献する金融商品の総称については、証券会社各社において多様な呼称が用いられ、その定義も各社によって異なっており、この点が、個人を含む投資家や販売側（外務員）の理解、認知度向上を妨げる一因となっている。
- SDGsに貢献する投資の促進のためには、分かり易く、統一した用語が使用されることが望ましい。

議論の結果、SDGsに貢献する債券を「SDGs債」と統一して呼称することとし、顧客に対する分かり易さ、認知度向上の観点から、可能な限り統一呼称を用い、日証協は当該呼称が広く一般に浸透するよう、周知のための施策を行っていくとした。